

令和元年度第2回小美玉市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和元年5月22日（水）午後3時00分～午後4時00分
- 2 場 所 小美玉市役所 本庁2階 政策会議室
- 3 出席者 (市長及び教育委員会)
島田市長，加瀬教育長，中村教育委員，澤島教育委員，鶴町教育委員，
山口教育委員，柴田教育委員
- (事務局)
市長公室長，教育部長，指導室長，秘書政策課長，学校教育課長，
学校教育課長補佐，子ども福祉課子育て支援室長，子ども福祉課係長，
秘書政策課係長，秘書政策課主幹
- 4 会議次第 ○あいさつ ・市長あいさつ
・教育長あいさつ
- 協議事項 ・「美野里地区公立幼稚園の小学校教育への連携・接続」
の説明について
- ・園バスの運用に向けた整備について

5 内 容

○司会（秘書政策課長：以降の表記は「司会」）

ただいまから令和元年度第2回小美玉市総合教育会議を開催いたします。はじめに島田市長よりご挨拶をお願いいたします。

○市長

教育委員の皆さまには、日頃より、子どもたちの教育の充実・発展、健全育成のためにご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、前回の総合教育会議において、美野里地区の公立幼稚園は、令和3年度から竹原小学校にて小学校との連携・接続を意識した幼児教育を実施するというところで、協議がまとまりました。

本日は、関係機関への説明内容、さらには園バスなどの、今後、整備していかなければならない課題を整理し、開園に向けてしっかりと準備を進めてまいりたいと考えております。

委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただき、本日の会議を有意義なものにしてまいりたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします

○司会

続きまして、加瀬教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○教育長

教育の現場は急激に変化しており、10年前は小中一環ということで、小学校と中学校の連携が盛んに取り挙げられ、小美玉市においても取組みを進め、あと4年ほどで小中一貫教育が完成する見込みです。

近年は幼児教育に目が向けられ、小学校と幼稚園、保育園が連携することが盛んに取り上げられています。さらには消費税増税と同時に保育料の無償化が控えており、こうしたなか、美野里地区の幼稚園をどうするか、忌憚のないご意見を頂ければありがたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○司会

ありがとうございました。それでは、次第に従いまして3番の協議事項に入らせて頂きます。

小美玉市総合教育会議運営要綱第9条に基づき、議事録は小美玉市ホームページにて公開されますので、あらかじめご了承願ひします。

なお、公表につきましては、協議の内容上、前回会議と併せ議会終了の6月21日以降に公表とさせていただきますので、ご理解願ひします。

議事進行につきましては島田市長の進行となりますので、よろしくお願ひいたします。

○市長

それでは、本日の協議事項「(1) 美野里地区公立幼稚園の小学校教育への連携・接続の説明について」の①、「子育て支援に関する調査の結果報告」について担当所管に説明を求めます。

○子ども福祉課子育て支援室長

それでは、「①子育て支援に関する調査の結果報告」として、資料1に沿って説明をさせていただきます。

まず、子育て支援に関する調査ということで、子育て支援法に基づき、現在策定されております「小美玉市子ども子育て支援事業計画」が今年度で計画期間終了となることから、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とした「第2期小美玉市子ども子育て支援事業計画」を策定するにあたり、事業計画における事業量の見込みを設定する上での基礎資料とするために、保護者の皆さまからお子さんや子育て家庭の現状、今後の要望等について調査を実施しました。

調査の対象は市内に居住する就学前児童の保護者1,000名、小学校児童の保護者1,000名を対象に実施しました。

調査方法につきましては、郵送での調査票の配布・回収の手続きをとらせていただき、調査期間は平成31年2月15日から3月1日とし、それ以後に到着した調査票についても回収数に含め集計をおこなっています。

回収結果につきましては、全体として回収数が973件、回収率として43.7%。

就学前児童の保護者を対象にした調査については、回収数が470件、回収率が47%。

小学生児童の保護者を対象にした調査については、回収数が503件、回収率が50.3%となっております。

資料1につきましては、今回調査を実施した就学前児童の保護者を対象とした調査のなかから、幼稚園に関する設問を3つほど記載しております。

まず、1つ目の設問「利用している理由」としまして、平日に定期的に幼稚園や保育所、認定子ども園などの保育・教育の事業を利用している方を対象に、利用している理由について尋ねたものです。

こちらの設問については、当てはまるもの全てを複数回答でお答えいただいております。理由として多かったものとしては「子育てをしている方が現在就労している」が74.6%であり、仕事と子育てを両立している共働き家庭の保護者が多くなっているものと思われまふ。

2つ目の理由としまして、「子どもの教育や発達のため」と答えている方が全体の60.6%となっております。

次に2つ目の設問、「定期的に利用したい事業」として、幼稚園や保育所、認定子ども園を利用している、利用していないに関わらず、定期的に利用したいと考えている事業について、当てはまるもの全てを複数回答でお答えいただいております。

共働き家庭の世帯が多くなっているということで、認可保育所が55.1%と半数を超えており、次いで幼稚園が42.3%、認定子ども園が41.7%、幼稚園の預かり保育が24.9%と続いております。

次に、3つ目の設問「幼稚園（預かり保育）の利用意向」ということで、2つ目の設問の定期的に利用したい事業の回答の中で、幼稚園あるいは幼稚園の預かり保育以外でも利用したい事業があると回答した方に、その中でも特に幼稚園や幼稚園の預かり保育の利用を強く希望するかどうか尋ねた設問になります。

回答としましては、「はい」と答えた方が全体の70.1%となっており、「はい」と答えた方のうち、就労していない方、あるいはパートタイムなどで短時間労働をされている方が全体の約7割を占めており、小学校前の準備段階として幼稚園の利用を希望する保護者が多くなっていることが伺えます。

このアンケートの結果については、まだ単純集計の段階ですので、今後、人口の推計や子育て世帯の状況などを踏まえながら、次期計画の策定に向け作業を進めたいと考えております。

○市長

ただいま、所管課より調査結果の報告がありました。

調査の結果からも、幼稚園の利用については、保育園、認定子ども園と並び、選択肢の一つとして考えられている模様です。また、利用している理由についても、子どもの教育や発達のためということですので、改めて幼小連携の重要性を感じるどころです。

また、子育て計画においても、幼児教育をしっかりと位置づけ、小美玉市の子育て・幼児教育を進めなければなりません。そのためには、関係機関や関係者の理解と協力が不可欠であり、十分な説明が求められます。

これらを踏まえ、「②子ども子育て会議および議会への説明内容」について担当所管に説明を求めます。

○学校教育課長

「子ども子育て会議及び議会への説明内容について」として、資料の2-1、2-2については、6月に開催予定の子ども子育て会議および市議会への説明の内容となっております。

これまで、総合教育会議のなかで説明してきた内容としましては、美野里地区の公立幼稚園の「統合」ということを前面に出し説明をしてきましたが、前回の会議のなかで『「統合」よりも「幼小連携」を市の幼児教育として、積極的に推進していくという方向性を説明したほうがよい』との協議結果を踏まえ、説明資料を作成しています。

まず、資料2-1「美野里地区公立幼稚園の小学校教育への連携・接続について」の目的ですが、

『幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。子どもたちの育ちや学びの連続性を確保するため、小学校教育と幼稚園・保育園・認定こども園との連携・接続を積極的に推進する小学校と一体型の幼稚園を設置し、「保幼小連携・接続」の小美玉市モデルを構築することで、小美玉市の就学前教育の充実を図ることを目的とします。』

としています。

次に実施内容として6項目を掲げています。資料2-2の2ページ目をご覧ください。

実施内容の1点目、「美野里地区4園を集約し1園とし、竹原小学校の中に小学校と一体型の幼稚園を設置する。」では、

『「共同性の芽生え」を育むための教育環境を維持するためには一定規模以上の集団が必要です。公立幼稚園の過去10年間の園児数の推移、乳幼児人口等をみると、園児数は今後も減少することが見込まれ、集団での幼児教育の実施が難しくなっています。

4園を集約し1園とすることで、集団での活動が十分確保できるようになります。場所については、保育園・認定こども園の地区バランスを考慮し竹原小学校区とし、竹原小学校の中に小学校と一体型の幼稚園を設置します。』

としています。

次に2点目、「定員を、4歳児30名、5歳児30名とする。」につきましては、

『平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、本市においても私立の認定こども園による1号認定幼児の受け入れ体制が進んできました。また乳幼児人口の減少や共働き世帯の増加により保育園・認定こども園への入園が増えている現状を見ると、大規模な幼稚園の必要性はないと考えます。

定員については、4、5歳児の発達の過程を考慮し集団でのかかわりが十分確保される人数として4歳児30名、5歳児30名とします。』

といたしました。前回までは4歳児25名、5歳児25名として説明をさせていただいておりましたが、竹原地区に預かり保育を実施する幼稚園ができるとなれば、現在休園となっている竹原地区の子ども達も幼稚園への希望が見込まれることから、定員を少し多くし、4歳児、5歳児ともに30名といたしました。

また、前回までの説明では、1学年1学級と説明しておりましたが、定員については1学年何学級とは記載せず、それぞれ4歳児何名、5歳児何名との表記にさせていただいています。

次に、「小学校との保幼小連携・接続を具体的に研究・実践し小美玉市モデルを構築する。」

および、次項目「研究・実践の成果を、市内保育園・認定こども園・幼稚園と共有する。」につきましては、

『竹原小学校の中で幼稚園を運営することで、小学校との保幼小連携・接続を具体的に研究・実践し、本市の保幼小連携のモデルケースを構築していきます。また、研究・実践の成果を市内保育園・認定こども園・幼稚園と共有することで、研究実践園としての役割を果たし、本市の就学前教育の一層の充実を図ります。』

といたしました。これにつきましては、幼稚園や保育園、認定こども園だけでなく、小学校の先生方にとっても有効な幼小連携になると考えております。

次に、「インクルーシブ教育の一層の充実を図る。」につきましては、

『公立幼稚園が担うべき役割のひとつとして、家庭環境や国籍、障がい等に関わらず、幼児教育の機会を確保することが挙げられます。特別な配慮を必要とする幼児へは多様で柔軟な支援、方策を工夫し、障がいの有無に関わらず園児すべてが安心して幼稚園生活を送ることができるよう支援していきます。』

とさせていただきました。

次に、「通園バスの運行及び預かり保育を実施する。」につきましては、

『4園を1園に集約することから、現在の幼稚園ごとの通園区域を廃止し、美野里地区全域を通園区域とします。公立幼稚園の地域間格差解消や、遠距離通園となることで送迎が困難になる家庭への対応として、通園バスの運行は必要であると考えています。

預かり保育については、元気っ子幼稚園、玉里幼稚園で既に実施している事業であることから、美野里地区においても実施することとします。公立幼稚園も地域における子育て支援を担えるよう、保護者のニーズに沿った預かり保育の充実を図り、保護者の就労による通常の利用だけではなく、社会的理由による一時的な利用にも対応していきます。』

とさせていただいております。

資料2-1に戻っていただきまして、設置日につきましては、令和3年4月1日としております。

令和2年度の園児募集につきましては、これまでの説明のとおりですので、説明は割愛させていただきます。

以上の内容で子ども子育て会議、市議会への説明をしてまいりたいと考えております。

○市長

ただいま、事務局より子ども子育て会議と議会への説明内容について説明がありました。

これまで、総合教育会議において協議を進めてきましたとおり、「幼小連携」を教育方針とし、令和3年4月より竹原小学校予備教室にて開園するということです。

説明の内容等について、皆さまのご意見をお伺いしたいと思います。

いかがでしょうか。

●中村委員

まず、幼小連携、接続として小美玉市のモデルを構築することは、大きな目的としては非常によろしいと思います。

なぜなら、資料1でも幼稚園を利用する親の意見としては、必ずしも働いているから幼稚園を利用するばかりではなく、子どもの教育や発達のため幼稚園を利用するという考え方も6割を占めていることからすれば、幼稚園の小学校との接続というのは非常に関心が高いものと考えますので、幼小連携接続で小美玉市のモデルを構築するという狙いは的を得ていると思います。

また、実施内容についても、そのとおりだと思います。

特に、スクールバスの利用については、元気っ子幼稚園、玉里幼稚園と比較しても同じ条件になりますし、もちろん費用はかかりますけども、4園を1園に統合することによってコストが削減できる部分があると思いますので、ぜひこの機会に実施していただきたいと思います。

●澤島委員

小中一貫教育ということで、適正規模配置を進め、義務教育学校も必要になってきていると思います。同時に、保幼小連携も小学校、中学校と同じように、一貫性の流れのなかで小学校との一体型というのを市の教育の在り方の大きな特徴として、市独特のやり方を構築し、進めていただきたいと思います。

園児の数が減ってきたので1つにするのではなく、新たな小学校との一体型という形に移行していくということは、保護者の方々も安心して通わせられると思います。

●山口委員

前回の会議では預かり保育の部分があまり話されていませんでしたが、今回預かり保育についても掲げていますので、市民の要求に応える幼稚園になると思います。

●柴田委員

公立の幼稚園が幼児教育としてどの様な方向を目指すのかを示す良い機会になると思います。

●鶴町委員

すばらしい案ができたと思っております。

一つの目的に沿って幼稚園を立ち上げ、市民の要求に応じていくことが必要なことであるし、幼児教育の重要性のなかでも必要な施設と考えますので、幼稚園の成功といいますか、要望に応える施設をつくることに喜んでおります。

○市長

ご意見ありがとうございました。

事務局から説明のあった内容、配布された資料のとおり、子ども子育て会議および議会へ説明してまいります。

先ほど申し上げましたとおり、竹原小学校での開園にあたっては、関係機関、関係者の理解・協力が不可欠です。事務局には開園に向け、事業が円滑に進むよう、丁寧な対応をお願いします。

また、福祉部で策定を進める子育て計画につきましても、幼児教育の位置づけは重要な項目ですので、福祉部門・教育部門ともに連携を密にし、計画策定を進めていただくようお願いいたします。

それぞれ、委員さんには、「的を得ている計画ができた」とのお褒めを頂き、また、「一貫性の流れのなかで市独特の一体型として、保護者も安心するのではないか」との意見、

さらには「市民の要望に応じている計画であり、良い案ができた」というお話をいただきました。

この件については、保育・教育の立場で福祉と教育が連携を密にすることが保護者の理解をいただけるものと思えますし、保幼小連携という独特な小美玉市のモデルになると考えますので、よろしくお願ひします。

次に、協議事項の2、「園バス運用に向けた整備について」として、前回会議では令和2年度中に整備を進めるとして、事務局から説明いただいたところですが、詳しい内容について担当所管に説明を求めます。

○学校教育課長

はい、それでは、協議事項の(2)園バス運用に向けた整備につきまして、資料3をご覧ください。

美野里地区公立幼稚園に関する資料【通園バス運行関係】としまして、通園バス必要台数(案)でございますが、現在、元気っ子幼稚園と玉里幼稚園で園バスの運行をしています。使用バスはコースターで、幼児専用車を活用して大人3人、幼児39人乗りになります。資料に記載はありませんが、玉里幼稚園では2台運行しているうちの1台がロングタイプで49人乗りを使用しています。

元気っ子幼稚園につきましては、園児50人中34名が利用し、利用率68%、3コースに分かれており、1コースずつの利用者数は少ないのですが、百里基地を迂回するため3コースで運用しています。

玉里幼稚園につきましては、71人中46人の利用で64.8%となっています。玉里幼稚園は2コースとなっていますが、1学期中は3歳児が午前中で降園するため、実際には1学期中はもう1回回る形になっています。

美野里地区につきましては、4園を1園にするということで、幼稚園までの距離があるため、現段階では利用率を100%として計算し、運行コースを納場・堅倉・羽鳥地区2コースの4コースを想定しています。

竹原地区について記載はありませんが、実際には竹原地区からも利用が想定されます。

通園バスの必要経費につきましては、今年度、元気っ子幼稚園、玉里幼稚園で通園バスの購入事業を予定しており、この見積りから積算した内容を記載しています。

自動車の購入費、重量税、損害保険料等併せて1台あたり5,937,890円となり、4台で23,751,560円となっています。

次に、年間のバス維持費ですが、重量税、損害保険料、修繕料、燃料費併せて1台あたり387,870円、4台で1,551,480円となっています。

また、バスの運転は委託ですので、現在の委託費から算出し、1台あたり1,837,000円、4台で7,348,000円の経費を想定しています。

バスの整備に関する説明は以上になります。

○市長

ただいま、事務局から園バス運用に向けた整備として事務局から説明がありました。

園バスについては当然これから取り組んでいかなければならない問題ですが、具体的なバスの大きさやコース、園児の居住地の関係などを見ながら判断することも大事と思えますので、これから内容を詰めていくなかで、よりよいバスの運用方法を考えてまいりますのでご理解いただきたいと思ひます。

また、トイレなど学校の改修について事務局に考えを伺ひます。

○学校教育課長

改修費用等については、施設整備課と調整しながら実施計画に乗せ、予算を確保していきたいと思ひます。

○市長

小学校のトイレは大人と同じ大きさか。

○指導室長

同じ大きさです。場合によっては扉だけ交換するなど今後検討するものと思います。

○市長

便座の上に小さなものを乗せるのも可能か。

○指導室長

乗せるタイプもあります。

○市長

工夫をしながら進められればよいと思いますので、令和3年の幼稚園開園に向け、この竹原幼稚園が幼稚園と小学校の連携・接続のモデルケースとなるよう、市長部局、教育委員会ともに協力し合い整備を進めてまいります。バスの件は状況を見ながら進めなければならないと思いますので、今後も委員の皆さんからご指導を頂きながら進めたいと思いますので、よろしくお願ひします。

その他として、何かありましたら、ご意見を出していただき会議を有意義なものにしたいと思います。

○市長

他にご意見等ありますか。

●山口委員

この間の玉里東小の運動会では、市長に出席いただき、父兄も喜んでいました。人数が少ないなか、元気な運動会でした。

○市長

100m走など、選手と係で一杯になってしまうため、コースごとに走者をアナウンスするなど時間をうまく使っていました。

学校の先生の努力で盛り上げを作っていて、楽しい運動会でした。

●中村委員

希望ですが、竹原幼稚園で幼小一貫のモデルをつくるなかで、今回のアンケートを見ると子どもの教育や発達のため幼稚園を利用する親は多いわけです。

そうすると、今進めている小中一貫学校についても期待する親の心理はあると思います。

そこで、少子化・人口減のなか、小美玉市に住んでみたいという魅力の1つとして訴えられるような、一貫教育の魅力づくりを考えるべきだと思います。

事務局には、この件を常に意識していただきますようお願いいたします。

○市長

住んでみたいと思う際の条件として、やはり「教育環境の充実」というのは、選ばれる際の第1要素であると思います。

●鶴町委員

新聞などでは、人口の減少傾向として県全体で減少しているという統計が出ていました。そうしたところで、教育関係を整備していき、人口減少に歯止めをかけるための方策が必要だと思います。

○市長

記事では県内市町村のうち守谷市以外は全部マイナスでした。4月の移動時期ということもあるかもしれませんが、人口減少・少子化の大変な時代を迎えているのは事実なので、ダイヤモンドシティ・プロジェクトにおいて対策を進めてまいります。

それでは協議事項は以上となります。

進行を司会に戻したいと思います。ご協議ありがとうございました。

○司会

それでは、以上で総合教育会議を閉会といたします。

ご協力ありがとうございました。